



特集1

平成17年4月

福岡県大川市に理学療法学科・作業療法学科を併せ持つ九州初の私立4年制大学

国際医療福祉大学 リハビリテーション学部開設

特集2

第9回「風花祭」開催

テーマ：
ソウゾウ～ Create & Imagine ～



リハビリテーション学部棟完成予想図
(福岡県大川キャンパス)

◆「人」第7回

「比較と評価」

国際医療福祉大学附属熱海病院・院長
神崎 仁

◆連載エッセイ「映画の心と眼」第2回

「酒と《無心の美》」

客員教授 諏訪 淳

●薬学部開設

一平成17年4月栃木県大田原キャンパスに
北関東初の「薬学部」誕生一

Topics

笹沼澄子教授退任記念講演会・記念祝賀会開催／第三回言語聴覚センターミニセミナーを開催／栃木県視能訓練士勉強会開催／「世界網膜の日inとちぎ」ボランティア活動報告／「さいたま国体」で国際医療福祉大生が県代表の優勝に貢献／中国リハビリテーション専門養成プロジェクトへの参加を終えて／秋季イングリッシュブニングズ開講／第九回 学長杯スピーチコンテスト開催ー今回より在学生全員に参加資格ー

告知板

第3回 医療経営戦略セミナー開催のお知らせ／
国際医療福祉大学特別講演のフォーラム開催のお知らせ
／2005年度入学試験についてのお知らせ

平成十七年四月

April 2005

福岡県大川市に リハビリテーション学部開設 地域医療をリードできる 理学療法士、作業療法士を養成

“大川” Mini Guide

九州一を誇る筑後川と、広大な筑紫平野に象徴される豊かな自然に恵まれた大川市。イ草や「博多とよのか」ブランドで有名ないちごを始めとする農業や、有明海を拠点にした漁業も盛んで、全国有数の家具産地としても知られています。また、大川出身の有名な人も多く、「影を慕いて」、「悲しい酒」などの名曲で知られる作曲家古賀政男、最近では映画の監督も手掛けた陣内孝則そしてKABA、ちゃんなど個性派揃い。自然も人も、大らかさと繊細さが共存する、豊かな表情が魅力的な町です。

九州の政治、経済、文化の拠点、福岡市。その中心街である「天神」から電車でおよそ一時間、筑後川に象徴される豊かな自然に恵まれた福岡県大川市に、国際医療福祉大学は、来年四月の開校を目指し、リハビリテーション学部開設の準備を進めている。理学療法学科、作業療法学科の両学科を持つ、九州では初めての私立の四年制大学となる。

すでに文部科学省に対して提出していた「収容定員増に係る学則変更の認可申請」は、九月三十日付けで無事認可。これを受け、学生募集活動を開始するなど、来春へ向け開校の準備を本格化し、二月末の完成をめどに校舎の建設工事も順調に進んでいる。

これからの医療福祉を担う新しい人材教育がここ福岡県大川市でスタートします。



国際医療福祉大学 リハビリテーション学部長 太田善郎

来春、福岡県大川市に誕生する国際医療福祉大学リハビリテーション学部は、理学療法学科、作業療法学科の両学科を持つ、九州で初めての私立の四年制大学となります。それだけに、医療福祉を担う新しい人材教育に取り組む教育機関として、この学部の果たす役割は大きいと考えております。

そのために、栃木本校の実績を生かしながら、リハビリテーション学部ならではの新しい取り組みにもぜひ挑戦したいと決意を新たにしております。九月三十日に文部科学省の認可が下り、リハビリテーション学部も本格的に学生募集活動を始めました。昨今の高校生は地元志向が強いのか、地元九州の大学で理学療法士、作業療法士を目指すことが出来るこの学部への関心は高く、大学に対する期待を大きく感じています。

私も教職員一同、その期待に沿えるよう力を尽くして参りますので、皆様の「ご支援をよろしくお願い致します。」

学科四十名、作業療法学科四十名体制でスタート。栃木本校の実績を生かし充実したカリキュラム、先進的な役割を担ってきた教授陣など、九州のリハビリテーションの人材育成のため万全の教育体制を整えている。また、本学の大きな特徴である臨床教育の分野は、栃木本校同様充実した内容が提供される。隣接地の高木病院をはじめ、柳川リハビリテーション病院、介護老人保健施設水郷苑、ケアサポートハウス大川、おおかわケアハウスなど、大川、柳川地域には関連臨床実習施設である病院や福祉施設が数多くあり、医療福祉分野で働くことを目指す学生にとっては恵まれた環境である。来春のキャンパスは意欲に満ちた学生達であふれることだろう。

和田秀樹先生の特別講演会と 進学説明会を開催

十月二日(土)、本学は、グループ校である福岡国際医療福祉学院(福岡市中央区天神)で、「和田秀樹特別講演会&進学説明会」を開催した。来春に福岡県大川市に開校するリハビリテーション学部を広く知らせるため、同学部としては認可後、初の大きな催しとなった。当日は受験生や保護者など、約二百名が来場参加者は、データを駆使した和田秀樹教授の講演に熱心に聞き入っていた。

講演会では、まず理学療法学科長の丸山仁司教授が、国際医療福祉大学の各学科の説明や、学生生活そして国家試験への取り組み、栃木本校の実績について説明。続いて、今年八月一日付けで本学の教授に就任した和田秀樹教授が、「二十一世紀を勝ち抜く能力をつけるために」十八歳の選択」というテーマで一時間にわたり講演。日本の、いわゆる一流といわれる大学の学生達の数学や英語の学力を、世界の学生と比較したグラフなどを紹介。特にTOEFLの平均点はアジアで最下位に位置し、国内の学生の学力の低下を裏付ける最新のデータに会場からは驚きの声があがった。

こうした状況であるにも関わらず、今後ますます国際競争が厳しくなると予想される中で、何を、どのように学び、個人個人が能力を付けながら、十八歳の選択として何をすべきかとして、ポスト学

リハビリテーション学部

理学療法学科

Department of Physical Therapy

心と知識と技術をあわせ持つ
リハビリテーション専門職を育成します

人間としての基本的な動作を取り戻すリハビリテーションを担い、障害を持つ人々の「人生の質=QOL(Quality Of Life)」を高める理学療法士。少子高齢化時代を迎え、病院や施設だけでなく、在宅医療・地域保健・福祉の分野にも活躍の場が広がっています。理学療法学科では、基礎的な科目に重点を置き、理学療法の基本及び基礎知識・技術を徹底指導。同時にコミュニケーション能力の向上も重視し、人の痛みを理解できる心を持った専門職を育成します。

作業療法学科

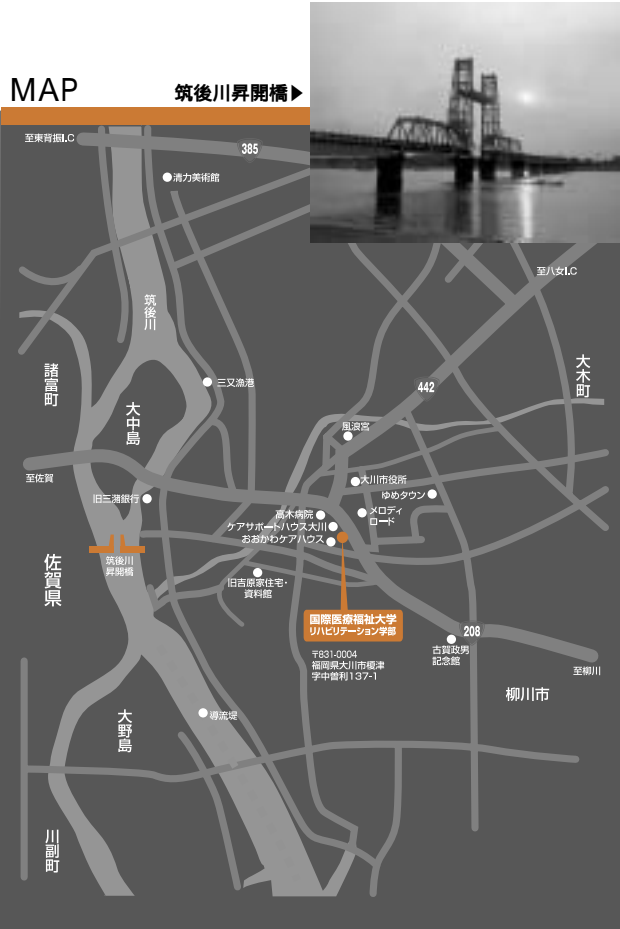
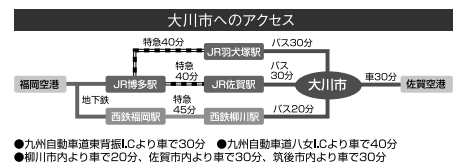
Department of Occupational Therapy

障害を持つ人の自立と社会復帰を支える
熱意あるスペシャリストを育てます

日常の応用的動作の訓練、創作活動や余暇活動などを通して、身体障害や精神障害などを抱えるすべての人々の自立や社会復帰を支援する作業療法士。本学科では、病院や施設から地域・家庭でのリハビリまで幅広く作業療法の学習を行い、障害を持つ人々の視点に立った援助が行える専門職を育成します。専門教育を6つの科目群に体系化するほか、病院や施設での実習科目も多数開講。専門職としての資質を効率よく習得できるカリキュラムです。

■リハビリテーション学部(1学部2学科)の概要			
学部名	学科名	入学定員	総定員
リハビリテーション学部	理学療法学科	40名	160名
	作業療法学科	40名	160名
■薬学部(1学部1学科)の概要			
学部名	学科名	入学定員	総定員
薬学部	薬学科	150名	600名
既設の学部			
保健学部	看護学科	100名	400名
	理学療法学科	80名	320名
	作業療法学科	80名	320名
	言語聴覚学科	80名	320名
	視機能療学科	40名	160名
医療福祉学部	放射線・情報科学科	100名	400名
	医療経営管理学科	100名	400名
	医療福祉学科	140名	560名
大学院			
医療福祉学研究所	保健医療学専攻 修士課程	54名	108名
	医療福祉経営専攻 修士課程	30名	60名
	保健医療学専攻 博士課程	25名	75名
小計		829名	3,123名
リハビリテーション学部・薬学部 開設後の本学の規模			
4学部11学科 大学院1研究所2専攻		1,059名	4,043名

問い合わせ先
リハビリテーション学部 設置準備室
〒812-0020 福岡県福岡市博多区対馬小路13-20
TEL.092-282-0503 FAX.092-282-6595
E-mail reha-nyushi@iuhw.ac.jp



歴社会の学校の選択、「社会のニーズ、世界のニーズを知った上での職業選択」自らのライフプランニングの検討」など具体的な提言がなされ、何より「生涯学び続けることの大事さ」を訴え、受験生達にエールを送り、会場からは大きな拍手が上がった。最後に高木邦格理事長が、国際医療福祉大学への受験と入学を呼びかけて開会した。

また、学院内では、福岡・栃木両キャンパスの面談形式による個別相談会、理学療法・作業療法のデモンストラーションも同時に行われ、活況を呈した。

参加者の父親の一人は、リハビリテーション学部については、「校舎がまだカタチとしてできていないので、少し不安だったが、周りに病院など関連施設が充実している」と知り安心した」とコメント。

P.Tを希望している高校3年生の男子は、和田教授の講演について「大変参考になった。これからの勉強方法にぜひ活かしていきたい。本学を受験したい」と

意欲的だった。

リハビリテーション学部では、十二月十一日(土)に、「開校フォーラム」を企画しており、自身が故障した右腕の治療とリハビリテーションに励み奇跡的な復活を遂げた元ロケットオリオンスの村田兆治氏をゲストにシンポジウムを行う。ぜひ多くの方においで頂きたい。(関連記事P10)

(リハビリテーション学部 設置準備室 原田千春)



講演をする和田秀樹教授

第九回 風花祭



「ソウソウ ~ Create & Imagine ~」
テーマ
十月十六日(土) 十七日(日)開催

p r o g r a m m e	
【第九回 風花祭プログラム】	十六日
教育後援会 第八回会員のつどい	
映画 痴呆老人の世界(岩波映画)	
特別講演 「映画の心と眼」映画の社会的役割」	講師 諏訪 淳
十七日	
お笑いライブ2004	
FUJIWARA、ルト33、佐久間一行	
風花寄席 三遊亭 京楽	
国際DAY	
特別講演 日本とオランダの科学技術交流	
講師 フィリップ・ウェイヤス氏(在日オランダ大使館参事官)	
いきいきらびふエスタ (福祉機器展)	
OB・OGセミナー&座談会	
花火(後夜祭)	

秋の一大イベントとなっている国際医療福祉大学「第九回 風花祭」が十月十六(土) 十七(日)大田原キャンパスで開催された。両日とも天候に恵まれ、二日間で延べ三千人が来場。例年になく大きな盛り上がりを見せた。

今年の「風花祭」は「ソウソウ Create & Imagine」がテーマ。「日頃大学生活で、授業や課題、試験に追われ(想像)だけで終わってしまっていた様々なアイデアをこの祭りを機に(創造)へと変えていこう。また(創造)したエネルギーを明日からまた始まる普段の生活に活かしていこう」という決意が込められている。

「いきいきらびふエスタ」も同時開催
「オープンキャンパス」も同時開催

今回の風花祭は、地域や学生による模擬店、野外ステージや教室での学科・クラブ・サークルによる各種発表会の他、福祉車両やコミュニケーション機器など約二百点を展示した、福祉機器の試乗・試用会「いきいきらびふエスタ」(十七日)オープンキャンパス(十六・十七)も同時に開催された。

海外各国での研修・ボランティア活動を参加学生が報告

第一回「国際DAY」が十月二十七日(日)に開催された。青年海外協力隊OBであるPT二年小野田公君の名司会で、今夏四方国海外研修・ボランティア活動参加学生の報告が口火を切った。パワーポイントを駆使し、各々個性に満ちた報告は、聴衆に生き生きとした活動、国の違い等を鮮明に印象付けた。

協力隊OG木下貴子さん(薬剤師)の最貧途上国マラウイでの報告は、その努力、難問への柔軟な対応、文化の紹介など示唆に富むもので、感動を与えてくれた。JICA東京からお越しいただいた寛克彦氏とJICA国際推進員佐藤玲子さんの事業説明は、いつか自分も役に立ちたいと思わせ、国際貢献への動機付けを喚起した。

昼食をはさみ、NS三年遠藤雅幸君が国際保健協力海外研修(フィリピン)と学生団体OPST活動(主に東チモール)を報告した。WHOと諸NGO活動の紹介、実践行動の基盤となる理念等を披露する見事な発表であった。

特別講演は、多忙の中お越しいただいた在日オランダ大使館・科学技術参事官ウエイヤス氏によるもので、四百年を越す日蘭交流史を基にする壮大な技術史と現代オランダ事情、特に安楽死にまで言及するもので、あらためて交流の深さに畏敬の念を覚えた。

数々のイベントが行われた学園祭の中で期待通りの聴衆を集められなかったこ



フィールドワークフェローシップ(フィリピン)参加の遠藤雅幸さんの報告

とは反省材料であるが、四時間余に及ぶ文化の薫り高いプログラムを谷学長の挨拶で幕を引いた。この種の活動を今後さらに発展させていきたいと考えている。

(国際交流委員長・語学教育センター 教授 田中美子)

OG・OBセミナー&座談会を開催

同窓会「マロニエ会」は、十月十七日(日)、風花祭の開催に合わせ、大学棟五階多目的ホールで、OG・OBセミナー&座談会を開催した。

この座談会は、医療・福祉の現場で活躍している卒業生を招き、就職活動の体験談やノウハウ、業界の現状、実際の仕事ぶりについて語ってもらい、在校生の就職に対する不安や疑問を和らげ、就職活動に役立ててもらうためのプログラムで、今回二回目の開催となる。当日は、卒業生三十七名、在校生四十二名、教員三名、高校生六名が参加した。

会場では、忙しい業務の間を縫って駆けつけたOG・OBを囲み、就職活動中

オープンキャンパスでは全九学科による模擬授業を開催

十月十六・十七日の二日間、開学以来初となる風花祭とオープンキャンパスの同時開催が実現した。文化祭との同時開催という点で、実際の学内行事が見られるメリットもあり、友人同士、保護者同伴など、地元から遠方の受験生までも多くの方が来場、学内は老若男女でいつも以上の賑わいを見せた。

オープンキャンパスでは、恒例の「総合ガイダンス」「個別入試相談、各学科・センターによる「体験入学」が行われ、今回初となる全九学科による「模擬授業」も開催された。

総合ガイダンスには受験生と共に保護者の姿も多く見られ、学長による大学紹介や学科長等による学科紹介に参加者は熱心に耳を傾けていた。個別入試相談には多くの受験生が詰めかけ、各学科ブースで教員と真剣に質疑応答を交わしていた。体験入学では各学科の学生が特色を生かしたコーナーを形成し、多くの受験生を集めた。また模擬授業では、真剣な眼差しで授業を受ける姿が印象的であった。個別入試相談、模擬授業とも、特に薬学部には多くの学生が集まり、注目の高さをうかがえた。

今回のオープンキャンパスで、今年度予定分(全六回)全てが終了。今年度は総勢二千九百四十一名が参加。特に夏休み中に開催された三日間は例年以上に多くの受験生が本学を訪れた。北海道から沖縄まで、全国各地の受験生に、本学の魅力を充分に知ってもらうことができた。



在校生にとって大変有意義な時間となった「OG・OBセミナー&座談会」

の学生や、職場での職務内容に不安を持つ学生が、熱心に先輩からの情報に耳を傾けていた。予め軽食やソフトドリンクが用意されていたこともあり、会場は始終明るく和やかな雰囲気であった。今回は、オープンキャンパスを同時開催したこともあり、女子高校生や保護者の姿もあった。国際医療福祉大学で学ぶこと、資格取得の件、卒業後の求人状況、職場での業務内容など、自身の将来を見据え、詳細な質問をしていた。

同窓会では、今回のOG・OBセミナー&座談会が好評で、継続の希望も多いことから、今後も引き続き開催していく予定である。

(学生課長 宮下貞男)

風花祭を終えて

第九回風花祭実行委員長 高橋 裕紀
(保健学部言語聴覚学科二年)

十月十六、十七日の二日間にわたって第九回風花祭が開催されました。両日も天候に恵まれ、延べ三千人を超える来



「薬学への招待 くすりを創り、くすりを育てる」と題し、模擬授業を行う伊賀立二教授(薬学部長)

「オープンキャンパス来場者アンケートから」

「いろいろな学科をまわりましたが、先輩方の熱心さや親切さがすばらしかったです。設備も整っており、更に受験したい気持ちが高まりました。受験についての先輩方のアドバイスがとても参考になった。」(看護学科志望 高校三年女子 長野県)

「模擬授業に参加して実際に先輩方の話を聞き、大学についてよく知ることができた。実際に見た大学は、パンフレットやホームページよりも魅力的でした。」(言語聴覚学科志望 高校三年女子 京都府)

「薬学部模擬授業を聞き、薬学部についてよく理解できました。伊賀立二先生(注:薬学部長)のお話が聞けてよかったです。個別入試相談コーナーも、とても参考になりました。今日は本当に来てよかった。」

(薬学部志望 高校三年 茨城県)
(入試課 井出貴広)

場者をお迎えする事ができました。実行委員会は六月から準備を進めて参りましたが、準備期間中、学内での工事などによる制約や学業との両立、個人では解決できない多くの課題に悩まされたこともあり、また、思うように準備が進まず、焦りや不安が募るような時期もありました。しかしその都度、委員の仲間や先生方、地域の皆様など周りの人に温かく支えられた事は、大変心強く感じました。

準備期間中の様々な苦労は、当日風花祭に参加していただいた方々の楽しんでる様子を見ると報われるように思えました。風花祭を準備・運営していく中で出会えた仲間や先生方、ご協力いただいた地域の皆様など全ての方々に改めて深く感謝いたしますとともに、御礼を申し上げます。

来年は記念すべき十回目の風花祭となります。今年以上に盛り上がることを期待しております。



第九回風花祭実行委員のメンバー 前列左から三番目が高橋さん

笹沼澄子教授退任記念講演会・記念祝賀会開催

九月四日(土)、アルカディア市ヶ谷(私学会館・東京都千代田区)にて笹沼澄子教授の退任記念講演会・記念祝賀会が高木邦格理事長、谷修一学長、本学教員、卒業生ほか多数の方々のご出席を得て、言語聴覚学科主催(実行委員長 藤田学科長)で盛大に開催された。

講演会において笹沼澄子教授は、「言語病理学に魅せられて」と題し、当該領域への思い、国内外での研究活動、それにまつわるエピソードなどをお話しされた。学会での講演や発表とは一味違う内容は、研究に対する姿勢や患者様への思いなど我が国の言語聴覚士への大きなメッセージであった。

講演後の祝賀会では高木邦格理事長、谷修一学長、来賓の方々による祝辞。多くの方々から寄せられた祝電メッセージや感想から笹沼教授の暖かいお人柄と交友の広さがうかがわれた。高木理事長より先生の肖像画が披露されると会場は一層華やかな雰囲気包まれ、閉幕直前に披露された畦上恭彦先生(本学科講師)による謡曲は、会場全体を魅了し、気品に満ちた笹沼先生にふさわしいものだった。

今回のために製作された記念誌「言語病理学に魅せられて」は、これまでの多くの業績のほんの一部をまとめたものと思われるが、言語聴覚障害領域にとっては大変貴重な財産になるだろう。本学科

教員は笹沼教授への感謝の意を込めて本会を企画、準備を行ってきた。ご理解、ご支援を頂いた関係者の皆様に心から感謝申し上げたい。
(言語聴覚学科助手 前新直志)

第三回 言語聴覚センターミニセミナーを開催

国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでは東北を中心とした関連機関(病院・福祉施設・学校・幼稚園・保育園など)に勤務するさまざまな職種の方々とともに学び交流する場として、隔月でミニセミナーを開催している。

今年度の第三回目は、九月七日(火)にさいたま市立高砂小学校「きこえとことばの教室」教諭、高橋明子先生を講師としてお迎えし、「きこえとことばの教室の指導と役割」と題して、構音障害や難聴の子供についての通級指導の実際、教室の役割や課題についてご講演いただいた。先生の豊かな経験にもとづいた、事例を交えてのわかりやすいお話に、五十二名の参加者は熱心に聞き入った。今後第一火曜日を中心として開催を予定している。本学職員、学生の参加も可能である。興味のある方はぜひ参加いただきたい。今後の予定は次の通りである。

【今後の予定】
平成十七年一月十一日(火)
「高齢者と言語障害(仮題)」

中国リハビリセンター職員一行が本校を視察

通信衛星を利用した遠隔リハビリ医療教育に関する共同研究やJAIICA技術交流を行ってきた中国リハビリテーション研究センターの時海峰副主任をはじめとする一行が十月五日、本校を訪れ、学内のほか、近隣の関連施設を視察された。特に、「大田原総合在宅ケアセンター」では明るく活動的な利用者の様子が熱心に見入っており、また「なす療育園」では、子供の障害によって療育環境を整えるなどの療育方針の下に整備された病室や、デザインの美しい各種補装具、車椅子などに深く関心を示されていた。
将来的には本学とのこれまでの学術研究、教育面での交流を更に発展させ、実質的な協力体制の整備を進めたいとの希望を述べておられた。
(理学療法学科教授 藤沢しげ子)



懇親会にて

黒羽真美先生(介護老人保健施設マロニ工苑言語聴覚士)

平成十七年三月一日(火)
「小児自閉症(仮題)」
飯塚直美先生(よこはま発達クリニック言語聴覚士)

【問合せ先】

国際医療福祉大学クリニック・言語聴覚センター(木暮・内海・落合)
電話:〇二八七 二四 一三三三
FAX:〇二八七 二四 一〇〇三
(言語聴覚センター言語聴覚士 木暮由季)

栃木県視能訓練士勉強会開催

九月九日(木)に栃木県大田原キャンパスにおいて、栃木県視能訓練士勉強会が開催された。この勉強会は春・秋の年二回栃木県の視能訓練士、医師が日頃苦慮している症例を呈示しディスカッションを行う目的で開催されている。

今回の参加者は、視機能療法学科教員五名、学外者二十九名であった。まず、「落合眼科より「心因性視覚障害の難治症例」が報告された。心因性視力障害は、器質的な病変がないにもかかわらず視力低下や視野狭窄などが生じる疾患である。心因性視覚障害は、近年増加傾向にあるため参加者の関心も高く、検査法や治療法についての具体的な意見交換が活発に行われた。本学からは、「眼振のケア」の

「さいたま国体」で

国際医療福祉大生が 県代表の優勝に貢献

「さいたま国体」サッカー競技成年男子で栃木県は二年連続の優勝を決めた。そのグラウンドには一人の福祉大生の姿があった。老若男女、誰からも「周ちゃん」と呼ばれ親しまれる男、「アスリート・島田周輔」である。

八月、国体を一ヶ月後に控えた周ちゃんと私は湯津上村にて草サッカーに興じていた。のんびりとした空気が流れる休憩中、彼は黙々とフィジカルトレーニングを始めた。この陰の努力は、国体の初戦でいきなり実ることとなる。

九月十一日、一回戦vs北海道、FWで先発した周ちゃんは前半だけで三得点、ハットトリックを達成(栃木六〇北海道)。その後も周ちゃんはチームの中心として活躍、二回戦(栃木一〇京都)、準決勝(栃木一、PK五 三愛媛)と勝ち上がり、栃木代表は宮城代表との決勝戦へとコマを進めた。

決勝の地・川越に集まった福祉大サポーターは教員をはじめPT四年生を中心にその数三十人!四日間では延べ百人にも及んだ。今大会のために考えられた応援歌が歌われ、「島田周輔」と書かれた手作りの横断幕には多くの熱いメッセージが寄せられた。試合開始十分後には、「ミヤギ!」「トチキ!」とコール合戦になり、会場は大きな盛り上がりを見せた。試合は延長戦までもつれる熱戦となったが、結



「モニビジョン法」について講演する新井田学科長

「世界網膜の日inとちぎ」ボランティア活動報告

九月二十六日、栃木県総合文化センターにおいて、日本網膜色素変性症協会主催の「世界網膜の日inとちぎ」が開催された。網膜色素変性症は治療が困難な難病の一つで、視野狭窄、夜盲、視力低下などの症状を呈する眼の病気である。今回、視機能療法学科三年生四十九名が、

果〇〇の引き分け。栃木・宮城両県優勝となった。

今大会は猛暑に見舞われ、各チーム共にコンディションとの戦いでもあった。そのため、メディカルサイドの働きが試合に大きく左右した。ここで獅子奮迅の活躍を見せたのが福祉大PT一年にして栃木代表公認トレーナーの村上憲治である。彼もまた優勝の立役者の一人であることは言うまでもない。

栃木代表チームには、選手として周ちゃん、トレーナーとして村上さんが、そして大応援団が参加した。また、選手の方には大会期間中にもかかわらず卒業研究の被験者になっていただいた。福祉大生のグラウンド内外の活躍、そして好成績と栃木県にも福祉大にも最高の大会となった。

(理学療法学科四年 牧雄介)



優勝した栃木県代表イレブン 2列目左より2人目が島田周輔選手

視覚障害者のための誘導ボランティアとして参加した。学生達はJR宇都宮駅、バス停、会場内などで誘導を行った。最初、視覚障害者の歩行誘導をどんなふうにしたらよいのかわからない様子だった学生も、やり方を教えてもらいながら徐々にコツをつかんでいった。

ボランティアの合間には、国立身体障害者リハビリテーションセンターの中西勉先生、東北大学大学院医学系研究所の玉井信先生による記念講演も聴講することができた。公演内容は、中西先生によるロービジョン者の生活指導や公的援助、様々な補助具について、玉井先生による網膜色素変性症の病理学的研究についてであった。また、昼食後行なわれたアトラクションでは、数名の学生が舞台上でダンスに加わったり、参加者との楽しいコミュニケーションをはかる機会をもてた。

今回、同時開催されたアイフェスタ二〇〇四では、日常生活で不自由を感じている視覚障害者のための様々な機器を紹介、相談会も行なわれた。展示ルームでは、視覚障害者用パソコンソフト、拡大読書器、各種ルーペ、単眼鏡、パリアフリー家電製品、盲導犬ロボットなど視覚障害者にとっての便利グッズが多数展示されており、誘導しながら見る事ができた。

今回の活動を通じて、初めて眼に障害がある方に接した学生も多かったと思う。その意味でも大変有意義なボランティア活動であった。網膜色素変性症の治療法が一日も早く確立することを願って、夕暮れの宇都宮をあとにした。

(視機能療法学科講師 三柴恵美子)

TOPICS

中国リハビリテーション 専門職養成プロジェクトへの 参加を終えて

日本国際協力機構の中国リハビリテーション専門職養成プロジェクトは約三年が経過し、これまで幾人かのPT・OT教員がこのIUHWで報告している。このプロジェクトの作業療法専門家として七人目の私は、四月から八月までの五ヶ月間北京に滞在した。中国の大学は九月が新学期ということ、私の滞在時期は一期生が二年目の後期の授業を受けていた。

これまでは基礎的な科目が中心の授業であったが、この九月からいよいよPTとOTに分かれた専門科目の授業が多くなり、その準備とこれまで行われた授業を反省して二期生の授業に備えるという時期であった。

中国リハビリテーション研究センター学院での専門科目の教育は、国際医療福祉大学に留学していたPT四名とOT二名（カウンタートパート）が中心に行う。彼らは午前中病院の臨床を行い、午後は教育活動に当たっている。授業を担当するのはその他に彼らと同じくらいの経験をつんでいる病院のPT、OTが行う。

彼らはこれまでも専門学校で教えてきていたのだが、大学のPTコース、OTコースと分かれたシステムで教えることは初めてなので模擬授業を行って関係者の評価を受けなければならない。そのような場で私たち日本人専門家も通訳付でコメントした。（授業を聞いている時にはパワーポイントの漢字でナントカわか

る。）このように授業準備の様々な援助を行うのが主な仕事であった。一方臨床場面での指導も求められ、午前中一時間ほどセンターの博愛病院作業療法室で相談にのっていた。

言葉の壁とOTの役割に対する認識の違いからか、指導したことはその場限りというもどかしさを感じた。十月にはこのプロジェクトの中間評価の時期で日本から調査団が現地へ赴き、これまでの活動の総括が行われることになっていく。

（作業療法学科助教 菅原洋子）



プロジェクトの舞台となっている中国リハビリテーションセンター

秋季 イングリッシュイニングズ開講

十月六日から十一月一日までの八週間、毎水曜日の夜六時半から一時間、英語の公開講座が開講されている。これは恒例となっている夏の行事とは異なり、地域社会の大人の方々を対象とする、系統だった英会話コースの第一回目である。初級と中級の二クラスに分かれて、それぞれ約二十名の方々が楽しく学習に取り組んでいる。

何年振りかで、大きく分厚いまっさらな英語の教科書を手にし、英語に触れることだけでも嬉しくてたまらないという気持ちで教室に漲っており、外には夜の帳が下りていても、灯りが弾けるような雰囲気である。



久々の英会話を楽しむ参加メンバー

らの顔なじみも少なからず参加している。和やかな集いの時間となっている。ネイティブ教員による英会話だけでなく、LL教室におけるビデオ・カセットテープを用いた聴解・発話練習も含むバラエティに富んだ授業が用意されている。参加メンバー同士のコミュニケーションも弾み、これからは仲間としての絆を強めながら、互いに刺激をあいっつ、英語を学んでいってほしいと願っている。（語学教育センター教授南井紀子）

告知板

第九回 学長杯スピーチコンテスト開催

今年より在学生全員に参加資格

毎年恒例のコンテストも、今年で数えて九回目となり、カリキュラム変更に伴い装いを一新した。昨年までは、二年会話授業の延長として二年生のみでの参加であったが、本年度からは在学生全員を対象とし、題材も自分の好きな英詩を選んて朗読するという「Poetry Recitation Contest」とした。自分の中にある「詩」へのこだわり、感激や感性を、英語の音に託して、詩のこころを聴衆に伝えてもらいたいと考えている。

予選は十一月二十五日を予定。また、本選には学長をお迎えし、審査員五名のもと、十二月八日（水）午後六時から、F101教室で開催される。

どんな詩が披露され、また、どんな表現で聴衆のこころを掴むのか、参加者の奮闘を期待している。（語学教育センター教授南井紀子）

本学初代大学院長 初山泰弘先生ご逝去

本学の初代大学院長、初山泰弘先生は去る平成十六年十月十三日にご逝去になられました。通夜および葬儀は、江古田斎場で行われ、本学からは高木理事長、谷学長はじめ多くの方が参列されました。ここに、先生のご冥福を心からお祈りいたします。

初山先生は、平成十一年、本学大学院設置にあたり、初代の大学院長に就任されました。すべてが初めてのことでしたので先生のご苦労は並大抵のものではなかったものと思われませんが、当時先生と苦労を共にした教員や学生は、その暖かいお人柄をいつまでも忘れることができません。

その後、博士課程の創設、サテライトキャンパスの設置など、大学院は初山先生のご指導の下で順調に発展しました。平成十五年、私が大学院長をお引き受けしましたが、現在では約三百名の学生が勉学に励むまでになり、本年三月には、初めて六名に博士号を授与しました。これも初山先生のご苦労があったから可能になったのです。

大学院以外でも、本学の国際医療福祉リハビリテーションセンター長、那須療護施設長、栃木県身体障害者療護施設協議会副会長にも従事され、栃木地域の障害者医療・福祉に多大な貢献をされました。

本学以外では、先生はご就任前には、国立リハビリテーションセンター総長と



初山泰弘先生

して障害者の医療・福祉に尽くされ、また、国際的には、国際パラリンピック委員会（IPC）委員として、世界、特にアジア地域の障害者スポーツの振興に尽くされました。その功績によって本年IPCでの最高の賞である「パラリンピックオーダー（勲章）」を授与されたことは記憶に新しいところです。また、政府関係の審議会などの委員も多かつとめられ、文字通り日本のリハビリテーションの中心になってこの分野を指導されました。先生がお亡くなりになってからも先生の残された障害者医療、福祉の精神は本学に立派に根付きました。今後、それを確実に引き継いでいくことが先生に対するせめてもの恩返しであると思えます。先生のご霊前にそのことを誓って筆をおきます。（大学院長 開原成久）

映画の心と眼

客員教授 諏訪 淳（すわ あつし）

第2回

酒と《無心の美》

《酒の心》を映画化したとい一九七九年に鹿児島で本格焼酎造りを題材にした作品《杜氏の春》、一九八八年には日本酒の習俗を扱った《南部杜氏》を製作、監督をした。酒造りの職人の頭である杜氏と、その下で働く多くの蔵人たちの人柄が投入されて《酒の心》がもし出される内面を映画にしたかったのである。

日本民族が生み育てた二つの誇るべき酒の真髄を説明することであった。日常生活においても《酒は憂いの玉露》《酒に呑まれる》《酒盛って尻切られる》などのたとえがあるように人との間に不思議な心情関係を持っている酒である。いざ映画化したいとシナリオに取り組み始めた頃、酒は《絶大な怪物》となって私に迫ってきた。

酒の心をどう取らえるのか。イメージの世界に高められ、心のゆさぶりが描けないで《怪物》酒を映画化などは、まったくおこがましいと思わざるを得なくなっていた。悩んでいた時、「うまい酒は、良い水、優れた原料そして杜氏の勤です。勤は他人には説明できません。寒い時には酒造りの桶に着物をさせたり、暑い時にはぬがせたり・・・ただそれだけです。たんとんと語る杜氏のことを思い浮かべた。

そう、あの《無心の美》を描けば、酒の心を表現できるのではないか・・・それは、民芸の精神を説き、実践の活動をされていた故・柳宗悦氏の主張であった。「作ることに打ち込むことによって自然と器には美が湧いてくる。自然が美を守ってくれる」と無名の陶工たちが、日常使う雑器作りを評価し、その雑器にこそ本当の美しさがあるのだと訴えられた。つまり《無心の美》である。

未来に渡って杜氏たちの酒造りに打ち込む人柄が《酒の心》をつくってゆくのだ。だからこそ日本の中で画一化されない地域文化の粹として酒の存在があることも認識すべきである。



三月酒造りの仕事仕舞いで、飯に感謝をする《飯倒しの儀式》（映画「南部杜氏」より）



薬学部棟（平成17年2月完成予定）

平成17年4月、 栃木県大田原キャンパスに 北関東初の「薬学部」が 誕生します。



国際医療福祉大学薬学部長
伊賀 立二

臨床薬学教育を重視し、
チーム医療に貢献できる
薬剤師を育成します

来年4月に開設します薬学部では、従来の薬学教育に不十分であった臨床薬学教育に重点を置き、平成18年からの六年制を見据えたカリキュラムと、模擬薬局・調剤室・製剤室を始めとする最新の臨床実習施設、附属熱海病院を始めとする関連病院での臨床実習を充実させ、チーム医療・地域医療に貢献できる医療人としての薬剤師の養成を目指します。

また、卒業後の多様な進路選択に合わせ、創薬に貢献できる人材を養成すべく、ゲノム創薬科学から製剤設計、臨床試験、医療経済、MR実践論、CRC実践論なども学べるカリキュラムを用意するとともに、人間性・社会性・国際性豊かな薬剤師としてコミュニケーション力、英会話力も兼ね備えた、時代の要請に応える新しい薬学教育をめざしてまいります。

本学ならではの 大きな特徴

【チーム医療に貢献できる新時代の薬剤師を育成】
医療・福祉系二学部八学科が集結する栃木県大田原キャンパスでは、一般の薬学系単科大学とは異なり、他の医療福祉分野の学生や教員と接する機会が多く、また豊富な関連医療施設での臨床実習を通じ、医師・看護師・理学療法士・作業療法士といった異なる分野の専門職が協力し、患者のケアにあたる「チーム医療」の考え方を在学中に直接学ぶことができます。

【従来の薬学部になかった新科目を多く設置】
薬学部を卒業した学生は、薬剤師としての勤務のほか製薬会社などの医薬情報担当

《薬学まめ知識》

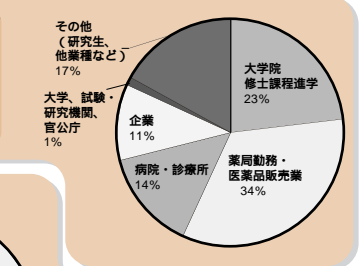
【MR（医薬情報担当者）】
医薬品の適正な使用と普及を目的に、製薬会社と医療現場の仲立ちとして、専門化、高度化していく医薬品情報の提供・収集・伝達を行う仕事です。病院等を訪問し、医師や薬剤師に自社製品の有効性・安全性について説明します。

【CRC（治験コーディネーター）】
国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことを治験といいます。この治験に係る事務的業務、治験に携わるチーム内の調整をする業務を担当するスタッフを治験コーディネーターといいます。

【薬学部六年制】
学校教育法の改正に伴い、平成18年度から、薬学部の六年制課程を卒業しないと、薬剤師の受験資格を得られなくなります。従って、平成17年度に、薬学部へ入学する学生は、四年制課程で薬剤師の国家試験受験資格を得ることができ、最後の薬学部生といつことになりま。六年制になると、病院実習が四週間から六ヶ月になるなど、より臨床実習における比重が高くなります。

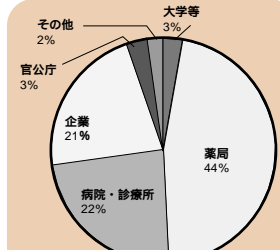
全国薬学系大学 卒業生の就職先

（平成13年3月卒業および修了）
〔総数7,793人〕
【日本薬学会2003年資料】



登録薬剤師の 勤務先

〔総数217,477人〕
【日本薬剤師会2003年資料
厚生労働省2000年調査より改定】



当者（MR）として活躍もできます。これまで、多くの薬学部ではMR養成の教育をしませんでしたが、本学では、MR実践論など現場での即戦力となる科目を設け、第一線で活躍するMRを講師に招いた実践的なカリキュラムを盛り込みます。

臨床試験担当者（CRC）は不足しているにもかかわらず、的確なCRC教育が行われていない場合が多いのが現状です。本学では、CRC実践論などの科目を設けて優れたCRCの育成を推進します。すでに大学院では、平成16年度よりCRC養成コースを設け教育を行っています。

二〇〇四年学校教育法の一部改正にもない、薬学部六年制が導入されます。将来の六年制に対応したカリキュラムも採り入れています。

十二月十八日（土）医療経営管理学科主催 第3回医療経営戦略セミナー 開催

十二月十八日（土）午後一時より、栃木県大田原キャンパスM棟一〇一教室において、第三回医療経営戦略セミナーを開催する。昨年からはじめた本セミナーには、近隣地域の医療福祉施設の関係者が多数参加。また今後の開催を期待する声を数多くいただいた。今回は、平成18年の診療報酬・介護報酬改定をテーマに、同時改定が医療福祉施設経営に与えるインパクトについて、本学科の多彩な講師陣がさまざまな角度から予測し解説する。

講演予定は、「介護保険制度の見直しと施設経営」（水巻中正学科長）、「DPCの導入と同時改定」（高橋泰教授）、「レセプト解析からみた介護保険と老人保健の利便関係」（菅原琢磨講師）。

DPCに取り組んだ初回、平成16年の診療報酬改定をテーマにした前回セミナー同様、師走の木枯らしを吹き飛ばす熱い集まりにしたいと、本学科学生を中心に着々と準備を進めている。医療福祉施設の経営者、実務担当者の方はもちろんのこと、多くの教職員・学生の皆さんの参加をお待ちしている。

（医療経営管理学科講師 加藤尚子）

国際医療福祉大学 特別後援のフォーラム 十二月十一日開催

本学は、平成十七年四月のリハビリテーション学部開設を記念し、十二月十一日（土）読売新聞西部本社主催、国際医療福祉大学特別後援のフォーラム「パートナーシップという視点」これからのリハビリテーション」を開催する。



村田兆治氏

日（土）読売新聞西部本社主催、国際医療福祉大学特別後援のフォーラム「パートナーシップという視点」これからのリハビリテーション」を開催する。

故障した右腕の治療と、リハビリテーションに励み、奇跡的な復活を遂げた元・ロケットオリオンズの投手村田兆治氏が講演する第一部、理学療法学科長の丸山仁司教授、作業療法学科長の杉原素子教授、和田秀樹教授がパネリストとして出席するシンポジウムの二部構成。

リハビリテーションの意義、障害を挑戦のきっかけと捉えて前向きに生きることの大事さ、などがフォーラムのテーマ。この催しを通して、リハビリテーション学部の開設を広くPRする。

日時：平成十六年十二月十一日（土）
午後一時三十分～午後四時
場所：西鉄ホール（福岡市中央区天神ソラリアステージ六階）

入場無料、要事前申し込み
主催：読売新聞西部本社
特別後援：国際医療福祉大学
問い合わせ：リハビリテーション学部
設置準備室
電話：〇九二二八二〇五〇三
（リハビリテーション学部 設置準備室 原田千春）

二〇〇五年度 入学試験についてのお知らせ

二〇〇五年度入試もすでに、第一回社会人特別選抜、AO入試、高校推薦入試までが順調に終了してきておりますが、来年度からの薬学部とリハビリテーション学部（福岡県大川市）の開設もあり、入試課では入試準備が大詰めを迎えています。

薬学部、リハビリテーション学部を含めた十二月以降の二〇〇五年度入学試験は、左記の日程で行われる予定です。また、大学院についても願書を随時受け付けておりますので、医療福祉分野に興味をお持ちの方が身近にいらつしやいましたら、ぜひ本学をご紹介いただきたいと思ひます。募集要項が必要な方は入試課までご連絡下さい。

なお、入学試験制度の昨年度との主な変更点は次の通りです。

2005年度入学試験日程

入試区分	試験地	学部	願書受付期間 （消印有効）	入学試験日	合格発表日
社会人・留学生 特別選抜	大田原	保健学部	2004.11.29(月) - 2004.12.10(金)	2004.12.18(土)	2005.1.6(木)
		医療福祉学部	2004.12.11(水) - 2004.12.13(月)	2004.12.19(日)	2005.1.6(木)
社会人・留学生・ 帰国生特別選抜	福岡	リハビリテーション学部	2004.11.30(火) - 2004.12.17(金)	2004.12.25(土)	2005.1.6(木)
		薬学部	2005.1.4(火) - 2005.1.21(金)	【センター試験】 2005.1.15(土) 及び 2005.1.16(日)	2005.2.15(火)
高校推薦入試 社会人特別選抜	大田原	保健学部	2004.11.30(火) - 2004.12.17(金)	2004.12.25(土)	2005.1.6(木)
		医療福祉学部	2005.1.4(火) - 2005.1.21(金)	【センター試験】 2005.1.15(土) 及び 2005.1.16(日)	2005.2.15(火)
センター利用入試	福岡 柳川	リハビリテーション学部	2005.1.24(月) - 2005.1.24(月)	2005.1.30(日)	2005.2.10(木)
		薬学部	2005.1.4(火) - 2005.1.21(金)	【センター試験】 2005.1.15(土) 及び 2005.1.16(日)	2005.2.15(火)
前期	A日程	仙台	2005.1.4(火) - 2005.1.21(金)	2005.1.31(月)	2005.2.15(火)
		大田原		2005.2.1(火)	
		福岡		2005.2.2(水)	
	B日程	仙台	2005.1.4(火) - 2005.1.21(金)	2005.2.3(木)	2005.2.15(火)
		大田原		2005.2.4(金)	
		福岡		2005.2.5(土)	
後期	大田原 東京	薬学部	2005.2.14(月) - 2005.2.23(水)	2005.3.2(水)	2005.3.10(木)
		保健学部	2005.2.24(木) - 2005.2.25(金)	2005.3.3(木)	
		医療福祉学部	2005.2.14(月) - 2005.2.28(月)	2005.3.4(金)	
福岡	リハビリテーション学部	2005.2.14(月) - 2005.2.28(月)	2005.3.5(土)	2005.3.11(金)	

【一般入試】
A日程 B日程とも
仙台会場を設定。また、一般入試（後期）には大田原会場のほかにも東京会場を追加。これにより、地方会場での受験がさらに便利になった。

福岡県大川市にリハビリテーション学部、栃木県大田原市に薬学部を新設。薬学部は北関東では初めての開設となり、四年制としては最初で最後の入試となる二〇〇六年度から薬学部は六年制に移行を予定。

薬学部でも社会人特別選抜を実施。社会人の方にもさらに選択の幅が広がった。今年も全国各地から多くの受験生の出願を期待しています。（入試課）

なお、新潟中越地震により被害にあわれた受験生の方には特別措置を取らせていただくことになりました。詳細はホームページをご覧ください。

比較と評価

比較と評価はなにごとにおいても必要である。人の評価は指導、育成、待遇、適材適所の起用等のために、病院の評価は医療の質を高めるために必要である。

イチローが二百六十二本の安打を打ち、八十四年振りにジョージ・シスラーの年間最多安打の記録を更新したとして話題になった。イチローの場合はシスラーの二百五十七という数字のみと比較され評価された。勿論、スゴいのはこれだけの数字かもしれない。彼の偉大さを否定するためにいっているのではないことを断っておく。しかし、評価にうるさい人にとっては、年間試合数は同じか、打球技術進歩、対戦した投手の人数、道具の改良、進歩などは考えなくてもよいのか、など疑問はある。

会社でも、病院でも比較し評価される。劣っていると思う側は努力、工夫してレベルをあげようと競争するため、それによって全体のレベルが向上するという効果がある。医療では質の評価が必要であること、なにを比較すればよいかまでは分かっていない。しかし、どのように比較すればよいのかが難しい。単に「適」マークのための定性的評価ではなく、他の施設との客観的比較ができるような指標を用いることが望まれる。患者にとっては治療成績の比較ができることが望ましいが、疾患の重症度分類、成績の判定法などに国際的なコンセンサスを得ることが難しい。熱海市長は熱海病院を誘致した責任上、市民からの評判を気にしていたが、市民の評価がよいので安心したと述べた。この評価も委員からの活動の低下した国立病院との比較、競



争相手のなかつた周辺病院との比較によるものであったかもしれない。開院間もない時期の評価は職員への対応、サービスの点で評価された可能性が高い。

その結果、周辺の病院が目覚めてサービスが改善されて見直されるといふことがおきること。このように、比較されればその指標がなすであれ、競争原理が働く。しかし、評価の指標をしっかりと決めて、眼に見える形で比較することが望まれていることだけは確かである。



プロフィール
慶應義塾大学大学院医学研究科修了、神経科学・耳科学。慶應義塾大学医学部名誉教授、日本耳鼻咽喉科学会副理事長、医学博士、日本聴覚医学会理事長、日本めまい平衡医学会理事などを歴任。
平成十四年より国際医療福祉大学附属熱海病院長。『めまいの正体』(文芸春秋)等がある。

国際医療福祉大学附属熱海病院

NEWS

九月二十八日

「院内外学術懇話会」を開催

九月二十八日、第十一回「院内外学術懇話会」が開催された。院内外学術懇話会院内の各職員のレベルアップを図るため行なわれる院内の研究会で、平成十四年七月の熱海病院開院以来、十一回目の開催。発表演題は左記の通り。

「消化器の3次元画像」

【内科・唐澤英偉教授】

「M・VAC療法で奏功した再発性膀胱がんの1例」

【女性診療科・北谷知己教授(副院長) 泌尿器科・栗山学教授 他】

十月十七日

十月十七日、第五回「市民向け『公開講座』」が開催された。当院の職員が市民の皆様に分かりやすく医療情報を提供する「公開講座」も第五回目を迎えた。

今回は「加齢と疾患」をテーマに熱海病院の職員が講演、二百五十名の市民の皆様に参加していただいた。発表演題は左記の通り。

「加齢とは」

【内科・都島基夫教授】

「加齢と消化器疾患」

【内科・北洞哲治教授】

「脳卒中対策」

【神経内科・玉城允之教授】

「健康のための50の計」

「看護部・横山直司師長」 在宅リハビリテーション - 生活の質を高めるために -

【リハビリテーション部・北出弘昭 副主任】
当院では地域医療に貢献するために今後ともこの「公開講座」を開催してまいります。次回については詳細が決まり次第、ご案内いたします。
(附属熱海病院総務課 本山聡洋)



第五回「市民向け『公開講座』」
テーマ: 「加齢と疾患」



公開講座ではメディカルチェックと個別相談も行われた

外来診療担当医師一覧表

Table with columns for Day (日), Month (月), and various medical departments (内科, 呼吸器科, 外科, etc.) listing attending physicians and their schedules.

教員紹介 Profile

現在の所属・職位 最終学歴 専門分野 前職 主
要著書・論文 本校における担当科目 今後の研究課題

徳江 章彦 (トクエ・アキヒコ) 国際医療福祉大学附属熱海病院 院長・教授

中村 雄二 (ナカムラ・ユウジ) 国際医療福祉大学附属熱海病院 副院長

柳田 薫 (やなぎだ・かおる) 国際医療福祉大学附属熱海病院 副院長

川原邦彦 (カワハラ・クニヒコ) 国際医療福祉大学 客員教授

松山 幸弘 (マツヤマ・ユキヒロ) 国際医療福祉大学 客員教授

吉岡 直紀 (ヨシオカ・ナオキ) 国際医療福祉大学 放射線科

国際医療福祉病院

リプロダクションセンター

十月一日より診療開始
不妊症とは出産する意思があるにもか...

そのような不妊で悩まれている方々のため、十月一日リプロダクションセンターを開設しました。夫婦が夫婦の努力で妊娠できるためには、男性には十分な精子数、女性には正常な卵管が絶対必要です。不妊症の原因は他にもありますが、多くは奥様と同じ位ご主人にも不妊の原因が見つかります。

このリプロダクションセンターは患者様のプライバシーを守るよう、二階の産婦人科とは別に五階に専用のスペースを設け、診察から体外受精にいたるまで全てセンター内で行います。
スタッフには不妊治療分野における第一人者である 田薫先生(前福島県立医科大学医学部産婦人科助教授、現国際医療福祉病院リプロダクションセンター長、十二ページ「教員紹介」参照)を柱に、数名の産婦人科医師が診察。また、エンブリオリスト(胚培養士)、カウンセラー、コーディネーター、専任看護師など不妊治療のエキスパートが揃っており、安心して検査・治療が受けられます。
不妊治療の成果はすぐには現れませんが、いろいろな治療毎の妊娠率もわかっ

ており、同じ治療を漫然と繰り返すことなく、適切な時期に治療の有効性を評価し、常に最適な治療法を計画します。
また、リプロダクションセンターでの検査・治療は基本的に保険診療内で行います。一部の精子機能検査、染色体検査や、人工授精、体外受精などは自費診療となりますが、それらの検査・治療は必要な時だけ相談の上行います。皆様お気軽にお訪ね下さい。スタッフ一同応援させていただきます。

(国際医療福祉病院総務課 小林庸良)



経験豊富なスタッフによる治療

マロ二苑・にしなすの総合在宅ケアセンター

秋の大運動会開催

身体を動かすことで心身の活性化を図ることは、重要なリハビリテーションの一つですが、仲間との交流を深めるとい

うのも大切なリハビリテーションです。スポーツの秋真つ盛りの九月二十四・二十五日、にしなすの総合在宅ケアセンター



白熱!パン食い競争

で、また、十月九日にはマロ二苑で毎年恒例の運動会が開催されました。マロ二苑では各階ごとにチームとなり、物送りゲームや、西那須野音頭、玉入れに興じました。入居者の手作りポンポンを使った応援合戦は熱が入り、黄色い(?)声援が飛び交い大変盛り上がりました。

にしなすの総合在宅ケアセンターでは二日間で総勢百人もの施設利用者が参加。百二歳の最高齢者や、九十九歳の方も参加され、借り物競争やパン食い競争に興じました。特にパン食い競争は人気競技で、なかなか食べられないパンに口をパクパクさせ、応援する側も一緒に口をパクパクさせては大笑い。

「運動会に出たのは何十年ぶりだ」と大喜びのおおあさんや、表彰状をもらって思わずうれし泣きするおじいさんもいらつしやう、職員一同心を打たれました。夏のアテネオリンピックが終わり寂しくなったのも束の間、心も体も熱くなる運動会を今年も開催することができました。皆様本当にお疲れ様でした。

(国際医療福祉病院総務課 小林庸良)

特別養護老人ホーム柘の実荘

敬老会開催

九月二十日、特別養護老人ホーム柘の実荘で毎年恒例の敬老会が開かれました。最高齢者九十六歳を筆頭に家族の方を合わせ、総勢五十名でお祝いをしました。九十歳以上の方は十二名で全て女性。敬老会では施設長の挨拶のあと、来賓の方々から祝辞と記念品をいただき、長寿のお祝いをしました。また入所者に人気の時代劇のショーも催され、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

(国際医療福祉病院総務課 小林庸良)



入所者に人気の時代劇ショー

国際医療福祉リハビリテーションセンター

「障害」から「障壁」へ
社会福祉法人邦友会 なす療育園 医師 滝口慎一郎
今日の社会では、大抵の場合、心身が不自由な方は「障害者」と呼ばれている。しかし、これはあまり響きの良い言葉ではないと考えている。

「障害者・障害児」とは、なんらかの発達上の障害、行動、感情のコントロールを含めて身体的な機能不全、生活上の行動の規制を伴うような障害を持っている人を指しているが、「害」という文字は、「障害物」という言葉が「邪魔な物」という意味があるように、「障害者」と言つと「邪魔な者」、社会にとって「害」であるような悪いイメージを与える可能性があるからだ。

戦前は「障礙者」と書いていたが、戦後の当用漢字では「礙」が一般的に使われない字になり、「障害者」と書くことが普及した。ただ、「礙」の俗字である「碍」という字を用いて「障碍者」と書いても良いことは、各種国語辞典で確かめられている。「害」が文字通り害であり、他人を害するという意味があるのに対し、「碍」が「妨げ」という意味のため、むしろ私は「障碍」あるいは平仮名で「しょうがい」と表現することが望ましいと考えている。

また英語では、困難に直面しているという意味で最近では「チャレンジジド(challenged)」と表現されている。アメ

リカでは、disabledという表現が「できない」を強調しすぎること、障碍児をchildren with special health needsといった表現に言い換えようという気運が高まり、公文書にもこの表現が使われ始めている。

現在、アメリカ、イギリスでは「妨げ」「障碍」であり、妨げがある者が「障碍者」とされており、ディスプレイ(Dis-ability 社会的障壁)を取り除いた上でインペアメント(impairment 身体的障壁)を如何に価値付け、価値の変換を行い、文化、経済に取り込むかの議論がなされている。

しかし、日本はそれ以前のインペアメント(impairment 身体的障壁)のりハビリテーション(rehabilitation 個人的障壁)に固執しており、健康な方が障壁を持たれた場合、なかなか復帰可能な社会にはなつておらず、ディスプレイ(Disability 社会的障壁)の除去も十分な状態となつていない。日本においても、障害を一つの個性としてつた子、つまり「支援を必要としている子」(children with special needs)という意味への思考の転換の時期に来ており、全てにわたり、本人の主体性を尊重しつつ、できる援助の形とは何か考えていこうとする取り組みが必須と考えられる。

「障害」から「障壁」へ、本人が「妨げ」をもつてはいても、他の人を決して「害」してはいない、という意味を込めて、医療・福祉に関わる人を中心に「障壁」と書くことが少しずつ定着するよう望んでいる。

山王メディカルプラザ

「呼吸器センター」のご紹介

山王病院呼吸器センター 須藤英一
国際医療福祉大学助教授
当センターは、いわゆるかせ症候群から気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫、間質性肺炎、呼吸不全、肺炎、肺がん、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、胸膜炎、自然気胸などすべての呼吸器疾患の方を対象として診療しております。

昨今の急速に進行している高齢化社会に加え、喫煙、大気汚染、排気ガス等社会的要因の影響、食生活の欧米化もあり慢性の肺疾患、ことに肺気腫、慢性気管支炎、そして気管支喘息を含めた慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺癌、さらに睡眠時無呼吸症候群(SAS)の患者様は増加の一途を辿っており、当センターも例外ではありません。その対策として、COPD患者様には薬物療法のみならず、理学療法、運動療法、禁煙指導等の他に、リハビリテーション(リハ)室の協力を得、呼吸リハにも取り組んでいます。患者様とその御家族を対象に呼吸教室も開催中です。

SASが疑われる患者様にはスクリーニング検査、終夜呼吸監視・簡易診断モニターを施行。悪性疾患が疑われる方には呼吸器一般検査に加えて、気管支鏡検査、経気管支肺生検、5・5メガヘリカルCTを用いた肺がん検診等、多岐にわたる診断が可能です。

例だけであつた開胸手術が、平成十五年四月からの一年間で、胸腔鏡手術(VATS)を合わせると手術症例数は計二十三件と増加しました。内訳は原発性肺癌七例、縦隔腫瘍二例、良性肺腫瘍十二例、自然気胸二例。従来行われていた開胸法が後測方切開であるのに対し、当センターでは腋窩前方切開(約10cmの腋窩縦切開)を導入、肺癌に対する肺葉切除にも対応しています。この開胸法は、後測方切開に比し創が小さく術後疼痛が軽度で患者様への侵襲が少ないことが特徴です。

また当センターは予防医学センターを始め、各科より比較的小型の病変の紹介が多い為、術前に確実な病巣のマーキングをする必要があります。病理診断の結果、良性肺腫瘍と診断されれば手術終了となりますが、悪性腫瘍の場合は、開胸を行い肺葉切除に移行します。術後は翌日に摂食を開始し二日目から歩行可能で殆どの症例が約一週間で退院可能となります。また進行肺がんに対する抗がん剤を中心とした化学療法の症例も増加、昨年度は延べ百三件に達しました。重症例や初回治療は、患者様のリスクを考え入院で行い、それ以外はQOLを考え、外来における化学療法を推薦しています。

今後は、院内はもとより地元医師会、近隣の検診センターとの連携を深め、患者様の紹介を促すため、胸部エックス線読影会や呼吸リハ等の勉強会の主催などの広報アピール活動も行う予定です。前記疾患の中でお心当たりの方、ご興味ある方はぜひ当センターまでお越しください。



勉強するなら、「医療福祉チャンネル774」

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカパーフェクTV! 774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

国際医療福祉大学の年間行事などを特集。先生方のインタビューやサークルのレポート、大学紹介などを織り交ぜた大学情報番組です。今回は、10/16～10/17に行なわれた第9回風花祭の様を中心に放送。今年のテーマは、「ソウソウ～create&imagine」。創造と想像を連想させ、大学生活において、地域に根ざした医療福祉をテーマに、学んでいること・考えていることを、創造するとし、屋外ステージ、学部・サークル発表、福祉機器展等を紹介していきます。



国際医療福祉大学風花祭

いのちの社会学 2

フジテレビ報道局・解説委員黒岩祐治氏がプロデュースする公開講座「いのちの社会学」を前期に引き続き放送の予定です。黒岩氏をはじめとして、第20回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家で、秋田公立美術工芸短期大学学長石川好氏など、各界の第一線で活躍するゲストが、私たち日本人の「いのち」を取り巻く環境について多角的に論じていきます。



黒岩祐治先生(国際医療福祉大学客員教授)

医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ! 視聴料・・・月額2,100円(税込)/法人契約:5,250円(税込) (このほかに、スカパーフェクTV!加入料・・・2,940円(税込・初回のみ)・スカパーフェクTV!月額基本料・・・410円(税込)がかかります。) IUHW学生、マロニエ会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問合せ下さい。

テキストのお申し込み・視聴に関するお問い合わせは
フリーダイヤル 0120-870-774(お客さま係) Eメール info@iryoufukushi.com ホームページ www.iryoufukushi.com

IUHW 国際医療福祉大学出版会新刊書のご案内

全13科目および実技を1冊にまとめたコンパクト版

「介護福祉士受験講座2005サブノート」



著者・高橋統一・東口重信・松本和則他 国際医療福祉大学 / 発行・販売 医療福祉チャンネル774
定価: 4,500円 (税込・送料サービス)

試験対策「必携」シリーズの第2弾

「必携 社会福祉士国家試験対策」



著監修 国際医療福祉大学医療福祉学科 / A5判 約360頁 / ソフトカバー / 発行 国際医療福祉大学出版会 / 販売 医療福祉チャンネル774
定価: 4,500円 (税込・送料サービス)

これから社会福祉学を学ぼうとするすべての初学者のための入門書

「入門・社会福祉学」



編著・・・国際医療福祉大学医療福祉学科 / 学科長・教授 / B5判、392頁
定価: 本体2,940円 (本体2,800円+税5%)

医療・経営管理職育成のためのバイブル。待望の四訂版!

「四訂 医療・福祉経営管理入門」



編著・・・国際医療福祉大学医療経営管理学科 / B5判、540頁 / ソフトカバー
定価: 本体3,990円 (本体3,800円+税5%)

ご注文は、国際医療福祉大学出版会まで 〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-34 島藤ビル 電話03-5414-6098 FAX03-5414-6096 E-mail: press@iuhw.ac.jp http://press.iuhw.ac.jp

デザイン: アイ・デプト

発行・国際医療福祉大学
編集部
【東京】
〒107 0062
東京都港区南青山一 一四一
アミティ乃木坂三階
電話 〇三二四七五 五〇六一
【大田原】
〒324 8501
栃木県大田原市北金丸二六〇〇
国際医療福祉大学内
電話 〇二八七 二四 三〇〇〇



IUHW 短信 入試日程(12月実施分)のお知らせ

- 入試事務室より -

IUHW Note

平成17年4月に開設する薬学部、リハビリテーション学部をはじめ保健学部・医療福祉学部の入学試験を以下のように実施します。

医療福祉分野に興味をお持ちの方が身近にいらっしゃいましたら、ぜひ本学をご紹介ください。

入試区分	試験地	学部	願書受付期間(消印有効)	入学試験日
社会人・留学生 特別選抜	大田原	保健学部 医療福祉学部	2004.11.29(月)~ 2004.12.10(金)	2004.12.18(土)
社会人・留学生・ 帰国生徒特別選抜	福岡	リハビリテーション 学部	2004.12.1(水)~ 2004.12.13(月)	2004.12.19(日)
高校推薦入試 社会人特別選抜	大田原	薬学部	2004.11.30(火)~ 2004.12.17(金)	2004.12.25(土)

2005年度入学試験日程詳細は本号P10に掲載 問い合わせ: TEL 0287-24-3200 (入試課)